

播磨一の宮

宍粟市一宮町

揖保川の上流、宍粟市（旧宍粟郡一宮町）に、播磨一の宮（伊和神社）という古くからのお社があります。

昔、大己貴神という国造りの神様がありました。出雲の国からこの地の伊和郷にこられました。

ところが、天日槍という神様もこの国にこられ、二人は、この国を自分の領地にしようとして争いをなさいました。長い間たたか

ましたが、どちらも強く勝負がつきません。

そこでお二方は、

「山の頂上に登って、それぞれ三条ずつ葛をとり、その先に石を結びつけてなげとばし、落ちたところを自分のおさめる国にしようではないか。」

と、話し合われました。

大己貴神のなげた葛のひとつは、揖保川沿いの地に落ちましたが、天日槍の葛は、全部但馬の方に落ちました。天日槍は但馬へいかれることになりました。

いずれも国造りの神様とされています。

やっと国占め争いに勝たれた大己貴神は、

「わが事業はおわった。ここに自分の柩をお

さめよう。」とおおせられました。この地を於和といい、それが伊和村となって、ながく神様をまつる地となりました。播磨第一のお宮というので、一の宮神社（伊和神社）といわれています。

このお宮は神社には珍しく、北の方を向いて建てられています。

そのいわれは、伊和郷の人びとの夢に「ここにわれを祀れ」という神のお告げがあり、ふしぎに思った里びとたちが翌朝起き出てみると、一夜のうちにこのあたり一帯に杉や松が生い繁り、空にはたくさん鶴が舞っていて、その中に二羽の鶴が北向きに眠っていました。

これこそ神のお告げにちがいないと、その所に、北向きにご神殿を建ててお祀りしたが、伊和神社のおこりであるといえます。

伊和神社の本殿は出雲の方に向かって建ち、社殿の建てかたも大社造になっています。きっと、大己貴神が出雲の神様であるので、その故郷の方を向いておられ、また社殿も故郷の様式をとり入れるよう希望されたのでしよう。

今も鶴の眠っていた石は、「鶴石」といってお社の後ろにあります。

